

令和3年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立南高等学校

令和4年1月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の教育目標は「グローバル人材の育成」である。グローバルに活躍できる人材に求められる能力として、本校では、母語・生活言語である国語の力を伸ばすことにより、読解力・表現力・論理的思考力を育み、国際語である英語の力を伸ばすことにより国際コミュニケーションの手段を獲得することを教育活動の大きな目標としている。また、将来、世界を舞台に活躍するためには、日本の歴史や文化、伝統を知り、生まれ育った国について誇りをもって語れることも不可欠な資質であると位置づけている。

このような目的を達成するために、専門教科としての国語・英語の授業を充実させるとともに、多彩な学科行事を実施し、生徒の言語力・思考力の伸長を図っている。また、「国語力」「英語力」向上のきっかけとして日本漢字能力検定や実用英語技能検定等の資格試験の受験を推奨しており、毎年、多くの合格者を輩出している。また、海外姉妹校や訪問団等との様々な国際交流を促進することにより世界を直接体験することや、対比を通じて日本をより深く知ることにも重点的に取り組んでいる。

本校の国語科は全国で唯一、英語科は府内公立高校で初めての設置であり、特に専門教科において先進的な指導法や取組、独自のカリキュラム等の工夫を重ねてきており、生徒や保護者から高い評価を得ている。また、小規模校ならではの利点を活かし、生徒一人ひとりのニーズに応じたきめ細かい指導を実施しており、教員の熱心な指導と生徒の粘り強い努力により、進路についても一定の実績をあげている。今後、これまでの「きめ細かい指導」にインクルーシブ教育の視点も取り入れ、指導の一層の充実を図っていく。

昨今、諸外国と比較して、我が国の若者の将来への期待感の希薄さ、自己肯定感の低さ、家庭学習時間の少なさ等が問題とされており、本校生徒についても例外であるとは言い切れない。特に、「働く」ことについて学ぶ機会の少ない普通科系の高等学校において、今まで以上にキャリア教育が求められている。本校においても、生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けることができるよう、キャリア教育の充実を図ることが必要である。また、生徒がそれぞれの進路希望をかなえ自己実現を図るためには、確かな基礎学力を定着させることと併せて、それぞれの興味・関心を広げる発展的内容について探究し、深く理解する学びが不可欠である。本校においても、家庭学習の習慣を定着させ、生徒の自学自習を促す段階的かつ継続的取組を行っている。

また、新学習指導要領の先行実施、令和2年度からの「英語探究科」入学生に対する対応、および令和4年度の桜和高校の開校に向けた準備をさらに進める必要がある。

中期目標 各目標に関連する保護者・生徒アンケートの結果を90%以上とする。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 明確な将来設計に基づいて進路選択ができるよう、3年間を見通した計画のもとでキャリア教育を推進する。
- 生徒に自尊感情を持たせ、自己肯定感や自己有用感を高める指導を通じて、他者を認め尊重する態度をも育成し、いじめを未然防止する。
- インクルーシブ教育の観点について教職員への浸透を図る。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 生徒の積極的な学びを促すため、様々な手法を柔軟に取り入れる。また、専門教科を中心に次期学習指導要領を先取りして先進的な教育を深化させる。
- 日々の学習習慣を確立させることにより、生徒の学習量を増やし、学びを深める。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・生徒の健康観を高め、自主的に健康管理ができる力を養う。また、校内の美化・環境整備、学校保健委員会に関して生徒が主体的に取り組むように指導する。
- ・視聴覚機器に対する保守・改善を実施する。また、授業スタイルに応じた技術やシステムの導入を検討する。
- ・基本的な生活習慣を確立させるとともに、ルールを守り、マナーやモラルについても考えて行動することのできる生徒を育成する。
- ・生徒の自主的な活動を促進し、学校生活をより充実したものにする。
- ・生徒が自己の将来を思い描いて進路選択ができるよう、キャリア教育を充実させる。
- ・それぞれの生徒の状況に応じたきめ細かい指導の充実を図るため、生徒支援委員会を中心にインクルーシブ教育について理解を深め、支援体制の充実を図る。
- ・学校図書館の利用促進を図るとともに、生徒各自の読書の機会を増やす工夫や、学習において利用しやすい環境づくりに努める。
- ・生徒会活動や部活動を家庭や地域に情報発信するとともに、地域行事にも参加して交流を深める。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・授業において「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）等を取り入れて、生徒に積極的な取り組みを促す。
- ・国語科では、鑑賞行事を通して日本文化に関する知識を深める。
国語科の授業や行事の中でコミュニケーション力及び言語表現力を向上させる。
- ・英語科では、英語学習活動において、思考力・判断力・表現力を育成する。
様々な英語科行事を通して、プレゼンテーションの機会を与え、論理的に意見や主張を発表する力を高める。
- ・「桜和高等学校開校スケジュール」に基づいて作業を進め、新校の円滑な開校に繋げる。
- ・学校図書館の利用促進を図るとともに、生徒の読書の機会を増やす工夫や、学習において利用しやすい環境づくりを実施する。
- ・生徒一人ひとりの進路希望の実現を可能とするため、日々の学習習慣を定着させ、自学自習ができるよう指導を行う。
- ・新テストに対応するため、自らで学びを深める意識を高めさせる。
- ・生徒一人ひとりが自主的に国際交流活動に参加できるよう、活動の運営・企画等について工夫する。また、国際交流活動を体験型学習やアクティブ・ラーニングの観点から捉え直し、一層の充実を図る。
- ・生徒の健康観を高め、自主的に健康管理ができる力を養う。また、校内の美化・環境整備についても生徒が主体的に取り組むように指導する。
- ・学習指導要領改訂にともなう先行実施内容の検討・準備を行う。
- ・「桜和高等学校開校スケジュール」に基づいて作業を進め、新校の円滑な開校に繋げる。

3 本年度の自己評価

--

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 施策1（安全で安心できる学校、教育環境の実現） 関連 ・生徒の健康観を高め、自主的に健康管理ができる力を養う。また、校内の美化・環境整備、学校保健委員会に関して生徒が主体的に取り組むように指導する。 ・視聴覚機器に対する保守・改善を実施する。また、授業スタイルに応じた技術やシステムの導入を検討する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容1【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ネットの適切な利用方法について徹底して指導し、トラブルを未然に防ぐ。また、SNSをはじめとするコミュニケーションの取り方についても考えさせる。 指標：年度末アンケートで、スマホを適切に使用できたの回答を9割以上にする。	B
取組内容2【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 視聴覚機器、放送・照明設備等の老朽化に対応するとともに、さらなる充実を図る。 指標：各機器、設備のメンテナンスにつとめる他、多目的室でのICT機器利用における工夫や利便性を高める。	B
取組内容3【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 保健委員を通じて各清掃場所の清掃状況の確認、また、用具の必要数を明確にする等、清掃環境を整備する。 指標：保健委員会を学期に一度開催し、現状を把握し、必要に応じて改善を図る。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 携帯電話・SNSの使用方法について学校全体で指導できた。全校対象に携帯安全教室を1学期に実施した。年度末アンケートの結果、スマホを適切に使用できた割合が90%となった。 ② 多くの授業でマルチメディア(パソコン)教室を使うようになり、不具合も出てくるようになったので、何度も業者に来てもらい、対応した。 ③ 保健委員会を複数回実施した。また学期に一度、保健委員が各清掃場所の用具の点検を行い、必要数を明確にし、清掃環境を整備した。	
次年度への改善点	
① 全校生徒にも指導できる機会や、教職員全体で指導できる体制を構築する。 ② 昨年度から導入したメッシュWi-Fiは、元になるインターネット回線が非常に混雑しているのと、校舎の構造上、電波状況の改善は難しかった。次年度、南高校の移転先である扇町総合高校(府立桜和高校)は、情報機器の会議によると、パソコン機器やインターネット環境などは十分に使えるものと思われる。現在分かっている情報では、特に改善点は思い当たらない。 ③ 今年度は実施しなかった学校保健委員会に関して、早い段階からその発表に向けての準備を進める。	

大阪市立南高等学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>施策2（道徳心・社会性の育成）関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣を確立させるとともに、ルールを守り、マナーやモラルについても考えて行動することのできる生徒を育成する。元気よく挨拶ができるようにする。 ・ 集団における「自己」を意識するとともに「他者」を大切にするところのできる人材を育成する。 ・ 自己実現に適う進路目標に向けて自ら行動する意識を持たせる。 ・ 規範意識を高め、自ら考え、判断し、行動することのできる生徒を育成する。 ・ 生徒の自主的な活動を促進し、学校生活をより充実したものにする。 ・ 何事にも興味・関心を持ち、積極的に取り組む姿勢を育てる。 ・ 生徒が自己実現に向けた進路選択ができるよう、キャリア教育を充実させる。 ・ それぞれの生徒の状況に応じたきめ細かい指導の充実を図るため、生徒支援委員会を中心にインクルーシブ教育について理解を深め、支援体制の充実を図る。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容4【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>頭髪・服装指導により、高校生としての身だしなみを整えさせるとともに、校則を守ろうとする態度を養う。特に、身だしなみについては、自覚を持たせ指導する。</p> <p>指標：始業式、登校時に指導を行うほか、風紀向上週間に合わせて、身だしなみを意識させる取り組みを行う。年度末アンケートで制服を正しく着こなせた割合を9割以上にする。</p>	B
<p>取組内容5【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>基本的な生活習慣を身に付けさせる一環として、遅刻者の早朝登校や遅刻指導を行うことにより、遅刻を減らす。5分前行動がとれるよう指導する。</p> <p>指標：8時25分以降の登校生徒数を5割減らす。</p>	B
<p>取組内容6【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>声を出して挨拶する、敬語で話すことができるなど、生徒の社会性を育成する。</p> <p>指標：風紀向上週間に合わせて、挨拶等のマナーを意識させる取り組みを実施する。アンケートでしっかりと挨拶ができた割合を9割以上とする。</p>	—
<p>取組内容7【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>円滑に高校生活が送れるように生活リズムを整え、体調面での自己管理を行う。校則、マナーを守り、高校生にふさわしい行動をとれるよう意識づけさせる。</p> <p>指標：年間の遅刻件数を50回以内に収める。</p>	B

<p>取組内容 8 【施策 2 道徳心・社会性の育成】 2 学年では、円滑に高校生活が送れるように生活リズムを整え、体調面で自己管理を行う。校則、マナーを守り、高校 2 年生として自覚を持った行動がとれるよう意識づけさせる。</p> <p>指標：年間遅刻件数を 100 件以下にする。</p>	B
<p>取組内容 9 【施策 2 道徳心・社会性の育成】 3 学年では、心身の健康を自己管理しながら遅刻せずに登校すること、校則・マナーを守り、卒業学年として自覚を持った行動をとることを意識づけさせる。</p> <p>指標：年間遅刻件数を 200 回以下に抑える。</p>	C
<p>取組内容 10 【施策 2 道徳心・社会性の育成】 体育祭や文化祭などの行事や、部活動を通じて、生徒一人ひとりが主体性を発揮できる機会をもたせる。</p> <p>指標：行事ごとのアンケートで満足した回答する生徒の割合を 8 割以上にする。</p>	—
<p>取組内容 11 【施策 2 道徳心・社会性の育成】 1 学年では、集団の一員として責任感を持たせ、学校行事への積極的取り組みを促進させることにより、助け合う心を育成する。</p> <p>指標：アンケート結果における生徒の自己評価を 7 割以上とする。</p>	A
<p>取組内容 12 【施策 2 道徳心・社会性の育成】 2 学年では、集団の一員として責任感を持たせ、助け合う心を育成する。学校行事における中心的存在として積極的に参加させる。</p> <p>指標：アンケートによる生徒の自己評価を 7 割以上にする。</p>	B
<p>取組内容 13 【施策 2 道徳心・社会性の育成】 3 学年では、クラスや学年などの集団の中で、一員として責任感を持たせ助け合う心を育成する。</p> <p>指標：アンケートによる生徒の達成度を 7 割以上にする。</p>	B
<p>取組内容 14 【施策 2 道徳心・社会性の育成】 3 学年では、今年度履修する「探究」活動において、論理的思考力を向上させ、自ら社会における課題を発見し他と協働して解決する能力を育成する。</p> <p>指標：アンケートによる生徒の達成度を 7 割以上にする。</p>	B
<p>取組内容 15 【施策 2 道徳心・社会性の育成】 図書・放送委員について、それぞれの意識を高め、委員会活動に積極的かつ主体的に関わる態度を育てる。</p> <p>指標：図書委員会では日々の当番、広報紙作成や展示企画において、放送委員会では昼休みの放送・体育祭等の行事のほか、式典における機材等の運用など、生徒が自主的に参画できるようにする。</p>	B
<p>取組内容 16 【施策 2 道徳心・社会性の育成】 生徒保健委員会を中心に、率先して校内美化や HR 教室の美化・整理整頓を実施する。</p> <p>指標：保健委員が、月に一度、HR 教室の美化活動と整理整頓を行う。</p>	B
<p>取組内容 17 【施策 2 道徳心・社会性の育成】 1 年生と 2 年生のキャリア教育について、各学年で昨年と同じ回数のキャリア教育を行う。新しい入試の情報提供を積極的に行いキャリアパスポートの作成など学年と協力して行っていく。</p> <p>指標：1 年生と 2 年生へのキャリア教育を昨年度より回数を多く実施する。</p>	C

<p>取組内容18【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>心理面での課題のある生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、1学期に全教員対象に「気づきシート」に記入による調査を実施する。これに基づきスクールカウンセラーと連携し、専門的立場から助言をもらうとともに、必要に応じてカウンセリングに繋げる。</p> <p>指標：生徒支援委員会を毎学期開催し、教職員間で共通理解を深め生徒の教育的ニーズを具体的に把握し、学習状況・登校状況の改善を図り、心理面を起因とする中途退学・転学の防止に繋げる。</p>	C
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>④ 日々自覚が持てるよう声掛け指導を行ったため身だしなみに関する意識が向上した。アンケート結果で制服を正しく着こなせた生徒の割合93%はとなった。</p> <p>⑤ 昨年に比べ25分までに登校できない生徒は減ってきている。登校できない生徒を減らすため、日々声掛けを行った。昨年度比は0%減となった。</p> <p>⑥ 毎朝声掛け挨拶を行った。年度末アンケートの結果、しっかり挨拶できた割合は94%となった。</p> <p>⑦ 1月末現在、遅刻件数が140件と指標を大きく超えてしまったが無遅刻無欠席が50%をこえ、8割以上が年間遅刻3回以内である。また校則やマナーを守れた生徒が9割以上である。</p> <p>⑧ 1月31日現在の遅刻数は〇〇件である。特定の生徒が遅刻をしているためその生徒を除いた遅刻数は〇〇件である。基本的な生活習慣はほとんどの生徒が身に付けている。</p> <p>⑨ 2学期末までの累計件数が558回あり、不安を抱える少数の生徒ばかりではなく本鈴が鳴る前後に登校する者が非常に多い。</p> <p>⑩ アンケート結果、体育祭95%、文化祭93%が満足と回答をした。</p> <p>⑪ 日直・清掃活動・委員会活動等にまじめに取り組んでいた。文化祭においても各クラスの特徴をよく発揮し、創意工夫することができ、満足度も9割を超えている。</p> <p>⑬ できることが制限されさまざまな行事が縮小される中、一人ひとりが協力し合い、相応の責任ある行動がとれた。学年アンケートで88%の生徒が概ね達成したと回答。</p> <p>⑭ 論理の構築方法を学び、自ら探究する姿勢が身についた。学年アンケートで84%の生徒が概ね達成したと回答。</p> <p>⑮ 転学等で委員のペアが欠けてしまうクラスが多く、活動の負荷を分散する対応が必要だった。当番や原稿類の締切を忘れてたり、守れず担任からも繰り返し働きかけてもらう事例も例年より多かった。</p> <p>⑯ 毎月クリーンアップデーを実施し、保健委員が教室の美化活動と整理整頓を行った。その際、保健委員長と打合せを行い、生徒主体で進めた。</p> <p>⑰ 今年度は各学年と相談するなかで紙ベースの振り返りシートを作成し行うことで対応した。学年末にGoogleフォームを使用して振り返りでの提出を行いたいと考えている。ただ、キャリア教育については、1・2年に予定した回数を行うことができなかった。</p> <p>⑱ インクルーシブ教育推進担当アドバイザーからの助言要請に関して、今年度は実施しなかった。</p>	

次年度への改善点

- ④制服の着用の仕方を検討し、全教職員で取り組むようにする。
- ⑤どのような遅刻指導が有効か検討する。
- ⑦新校でも気が緩むことがないように注意喚起し、けじめある生活を継続させる。遅刻件数の指標設定については、配慮との兼ね合いで工夫する必要がある。
- ⑧遅刻は件数だけでなく、中身を精査できるよう目標を設定する。
- ⑨件数を減らすには現状の月間3回以上の遅刻者対象の早朝登校だけではなく、遅刻した日ごとの事後指導を再開すれば効果はあると思われる。
- ⑩生徒が主体的に取り組める内容の検討をさらに進める。
- ⑪新校2年生として学校行事や部活動等を中心となってリードできるよう、継続して指導する。
- ⑫体育祭の満足度は97.1%であった。また文化祭の満足度は95.7%と非常に高かった。行事に満足し、積極的に参加することができた。
- ⑬保健委員長・生徒主体の形での環境整備・美化を継続させたい。
- ⑭担任だけではなく教科担当からも生徒の情報を随時収集し、各生徒の状況把握に努め、必要な支援を検討する。

大阪市立南高等学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>施策3（地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の利用促進を図るとともに、生徒各自の読書の機会を増やす工夫や、学習において利用しやすい環境づくりに努める。 ・生徒会活動や部活動を家庭や地域に情報発信し、地域行事にも参加して交流を深める。 	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容19【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>生徒会活動や部活動について、WEBページや生徒会新聞等を利用して保護者や地域に発信するとともに、地域行事への参加により地域との交流を深化する。</p> <p>指標：生徒会新聞の発行を年間5回以上行い、部活動HPの更新を学期ごとに行う。</p>	B
<p>取組内容20【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習】</p> <p>読書活動の活性化のため、図書館行事の開催や広報誌の発行、展示を通して、作品や作家の情報提供を積極的に行う。</p> <p>指標：図書委員会による広報紙編集、および、読書週間に合わせた大型展示作成で、読書活動の活性化を図り、図書館の利用者を昨年度より増加させる。</p>	B
<p>取組内容21【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習】</p> <p>教科や分掌、学年と連携し落ち着いた学習環境の確保、時代や学校のニーズに合った蔵書の見直しと配架を行う。新校の蔵書準備にもその点が引き継げるようにする。</p> <p>指標：授業利用や探求学習において、学年や教科と連携を図る。移転準備のために蔵書構成に及ぶ変化は、公共図書館とも密に行うことで、補えるようにする。扇町総合高校と西高校の図書館担当者との連携を深める。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①ホームページに部活動の活動を掲載できている。生徒会新聞は1月現在で4回発行した。</p> <p>②1学期から短い当番の時間に少しずつ準備を重ね、協力してアイデアを出して作業分し、「本で旅をしよう」展示を完成できた。委員が担当分野の魅力を深めたり、展示を見た生徒が本に興味を持つきっかけにもなった。</p> <p>③館内の整理にあたっては、自習スペースへの影響が少ないように順序を工夫した。扇町総合高校、西高校両校の司書とも密に連絡を取り、新校の蔵書選定にあたった。</p>	
次年度への改善点	
<p>①ホームページの充実を図れるよう校内で連携し取り組む。</p> <p>②現時点で可能な限り、新校での学習に対応できる蔵書選定を3校で協力し行ったが、府</p>	

立桜和高校の図書館には司書が配置されないので、新校のニーズに合わせた蔵書管理のアップデートを続けていくのは困難になることが予想される。

大阪市立南高等学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>施策5 (子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) 関連のうち学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業において「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)等を取り入れて、生徒に積極的な取り組みを促す。 新学習指導要領で先行実施する総合的な探究の時間について授業計画を検討する。 国語科では、鑑賞行事を通して日本文化に関する知識を深める。 国語科の授業や行事の中でコミュニケーション力及び言語表現力を向上させる。 英語科では、英語学習活動において、思考力・判断力・表現力を育成する。 様々な英語科行事をとおして、プレゼンテーションの機会を与え、論理的に意見や主張を発表する力を高める。 「桜和高等学校開校スケジュール」に基づいて作業を進め、新校の円滑な開校に繋げる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容22【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基礎学力の定着と向上を図り、週4日以上小テストを行う。</p> <p>指標：各学年とも年間80回以上小テストを実施する。</p>	B
<p>取組内容23【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 授業への積極的な取り組みを促すため、創意工夫した適切な指導を行う。</p> <p>指標：「学校に関するアンケート」の1～5の5項目にわたり、肯定的評価を生徒・保護者とも、すべて8割以上にする。</p>	B
<p>取組内容24【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 すべての教員が、「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)に取り組み、プレゼンテーション能力の向上に努める。</p> <p>指標：すべての生徒が、グループまたは個人において、年に2回以上発表を行う。</p>	A
<p>取組内容25【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 教員がお互いの授業を見学することにより様々な指導法や授業展開の工夫について学び、生徒の目線で観察することにより授業者として気付きを得るなど、授業力向上に活かす。</p> <p>指標：すべての教員が年間2回以上、授業見学を行う。</p>	B
<p>取組内容26【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 「総合的な探究の時間」について昨年度の試行に基づき、授業計画を検討して実施する。</p> <p>指標：各グループで課題を考察させて、プレゼンテーション発表を体験させる。</p>	B

<p>取組内容 27 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 生徒一人ひとりの表情・様子や学習状況・交友関係などの情報から、その生徒の抱える問題の早期発見に努め、指導の充実を図る。</p> <p>指標：教職員間できめ細かい情報共有を行うために、生徒支援委員会を毎学期開催し、その内容を全教職員に周知することにより、指導を充実させる。</p>	B
<p>取組内容 28 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 英語科専門科目の学習活動において、収集した情報を適切に判断し論理的に自分の意見を述べる力を養い、ディスカッションやディベートが積極的に行えるようにする。</p> <p>指標：生徒アンケートにおける達成度の自己評価の平均を10点満点中7点以上にする。</p>	B
<p>取組内容 29 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 イングリッシュ・セミナーⅠにおける生徒の活動を活性化することにより、「聞く」「話す」力を向上させる。また、イングリッシュ・セミナーⅡで演習を繰り返すことにより、英語検定試験等に対応できる英語力をつける。</p> <p>指標：生徒アンケートにおける達成度の自己評価の平均を10点満点中7点以上にする。</p>	B
<p>取組内容 30 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 国語科専門科目において図書室と連携し、豊富な専門図書・ネット検索コーナーを活用した調べ学習を充実させるとともに、それによって得た知識を活かしてより主体的で対話的な発表を行い、それを基にしたディスカッションができるようにする。</p> <p>指標：学校評価アンケートの学習に関する評価について好意的な評価を80%程度とする。</p>	B
<p>取組内容 31 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 国語演習などの授業などの国語科特有の行事を通じて、読む、聴く、書く、話す力を伸ばし、文学踏査、修学旅行においてその力を発揮させる。</p> <p>指標：事後アンケートにおける生徒の達成度を80%程度とする。</p>	B
<p>取組内容 32 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 1学年では、週4日の放課後小テストによって基礎学力を向上させながら、授業や考査の中で学習の積み重ねの大切さを実感させ、自学の意識を高める。</p> <p>指標：アンケート結果における生徒の自己評価を7割以上とする。</p>	B
<p>取組内容 33 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 2学年では、週5日の放課後の言語力向上演習や実力テストなどによって基礎学力を向上させながら、授業や考査の中で学習の大切さを実感させる。クラッシーを活用し、実力テストの事前学習を行い、進路実現のための学習につなげる。</p> <p>指標：言語力向上演習のアンケート結果における生徒の自己評価を7割以上とする。</p>	B
<p>取組内容 34 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 3学年では、日々の学習が希望する進路実現につながることを実感させることで主体的に学ぶ姿勢が身につくようにする。</p> <p>指標：アンケートによる生徒の達成度を8割以上にする。</p>	C
<p>取組内容 35 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 校外での進学説明会及び中学生を対象としたイベントに向けて、本校を窓口とし3校で連携しながら、桜和高校の広報活動を進める。</p> <p>指標：新しいパンフレットの完成、桜和高校の広報用HP、学校紹介ビデオの作成を行う。</p>	B

<p>取組内容 3 6 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 西高校と扇町総合高校と協力して、昨年度完成したシラバスを基に年間指導計画や探究の方策を検討する。また、選択科目や芸術科目など未完成のシラバスを完成させる。</p>	B
<p>指標：桜和高校の年間指導計画及び未完成のシラバスを完成させる。</p>	
<p>取組内容 3 7 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 桜和高校開設に向けて、授業展開や探究の手法を共有できる場を設ける。</p>	B
<p>指標：研究授業やワークショップ・研修など教員研修を実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>②コロナによる休業が数日あったものの、ほぼ計画通り実施した。</p> <p>③アンケートの質問と肯定的評価の割合は次のとおり。1 「教科・科目の内容や特色、評価方法などについて、先生方から具体的な説明を受けている」生徒 91.2%、保護者 91.1%。2 「教材や教授法がわかり易く工夫されているので、基礎的・基本的な内容がよくわかる」生徒 87.5%、保護者 89.1%。3 「授業がわかりにくいときには、特別な指導等も行われ、わかるようになる」生徒 78.1%、保護者 78.5%。4 「授業中、応用や高度な内容にも話が及び、新しい発見や興味に繋がる」生徒 77.8%、保護者 77.3%。5 「学習や学校生活で努力したことに合わせて、評価されていると思う」生徒 83.2%、保護者 91.3%。よって、項目 2 と 3 において、指標を下回ったけれど、ほぼ八割は達成できた。</p> <p>④授業者アンケート（常勤 25 人中 19 人と非常勤 3 人からの回答）によって、各学年の生徒が年間 3 回以上（1 年 13 回、2 年 14 回、3 年国語科 18 回、3 年英語科 14 回）の発表を行っており、目標を上回った。</p> <p>⑤授業者アンケートによって、授業者の授業見学回数は平均で 2 を上回った。これは無回答の 6 人の回数を 0 時間として計算したものである。けれど、すべての教員が 2 回以上見学することは達成できなかった。</p> <p>⑥各学年ともに計画通り実施し、発表を行った。</p> <p>⑦生徒支援委員会を実施し、生徒たちが抱えている問題について協議した。</p> <p>⑧ディスカッションおよびディベートの自己評価の平均は 10 点満点中 点であった。</p> <p>⑨イングリッシュセミナー I の自己評価の平均は 10 点満点中 7.2 点であった。本年度は校内での実施になったが、本校英語科教員に加え C-NET8 名の協力を得て、効果的な学習活動が行えた。</p> <p>⑩今年度も国語演習をはじめとする専門科目の授業で図書館の専門図書・ネット検索を活用し、生徒の読みを深めることができた。加えて、主体的・対話的な学びも進めることができた。以上のことや、学校評価アンケートの学習に関する評価についての好意的な評価も 90%以上あることより、評価点 80%を超えたと考えられる。</p> <p>⑪延期されていた現 3 年生の文学踏査は、感染予防の観点から例年とは違う形で夏季休業中に実施した。事後の紀行文の評価より、ほぼ全員の生徒が踏査によって自国の文化に直接触れ認識を深めることができたと考えられる。その他の行事や授業を通して読む・聴く・書く・話す力は生徒らの発表や作文から達成の指標である 80%程度を達成したと考えられる。</p> <p>⑫言語力向上演習は再テストも含めて前向きに取り組ませることができたが、家庭学習につながっていない生徒が 4 割程度いることが課題である。三者懇談について 85%の生徒の懇談を実施した。</p> <p>⑬ 2 月におこなった言語力向上演習のアンケート結果による満足度は〇〇%であった。満足度は非常に高かった。</p> <p>⑭授業担当の目で見れば、学びの主体性を実現している生徒が徐々に増えてきたとはいえ、</p>	

個人差は激しい。学年アンケートで83%の生徒が概ね達成したと回答。

- ③⑤ 昨年度のパフレットを改訂し、最新かつ詳細な情報を記載した。本校のホームページにおいても桜和高校に関する情報を随時更新した。桜和高校学校説明会で活用する紹介ビデオは、学校行事・学科・部活動・国際交流等の特色を紹介し、評価が高い。
- ③⑥ 桜和高校の教育課程・留学規程は完成しており、令和4年度から使用するシラバスも一般科目・専門科目共に概ね作成されている。
- ③⑦ 今年度、2・3学年で「総合的な探究の時間」を導入した。2学年修学旅行の探究活動に関する英語プレゼンテーションや3学年の研究に基づいた論文作成・プレゼンテーションを校内で公開することによって、授業展開や探究の手法を共有できた。

次年度への改善点

- ②②～②⑥ 来年度も引き続き計画し、実施したい。
- ②⑦ 数回の生徒支援委員会を開催した。今後も必要があれば回数を増やして生徒が抱える課題の把握に努めたい。
- ③⑩③① これまで本校国語科で培ってきた実績を活かし、新しい探究学習、教育活動の計画、実践に役立てていくように努める。
- ③② 言語力向上演習について継続して指導を行うとともに、各教科の実力を伸ばすため、週末の課題や夏季休業期間中等の学習課題などで自学の力をつける。
- ③④ 月並みな言い方になるが、進路目標を早く持たせられるかどうかにかかってくる。これまでのやり方の見直しや新しい実践方法の模索を検討していく。
- ③⑤ 桜和高校の詳細な情報を中学生とその保護者に紹介する広報活動を継続する。
- ③⑥ 桜和高校で実際に運用できるように、授業内容や手法を検討する必要がある。
- ③⑦ 次年度実施の「教育探究Ⅰ」や各教科の「探究」授業の実施に備えて、HR教室以外の施設を効率的に使用できるようにする必要がある。また、この本校の「探究」授業の取り組みを記録として残し、桜和高校での「探究」授業に活かしたい。

大阪市立南高等学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>施策5 (子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) 関連のうち進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の希望に応じた適切な進路指導を実施する。特に、大学進学を柱とした進路指導の充実に努め、国公立と関関同立に関しては前年度と同程度の合格者数をめざす。 ・1学年では、自己実現のために専門科目への意識を高め、主体的な進路意識を持たせる。 ・2学年では、積極的に専門科目に取り組み、自己実現に適う進路目標を持たせる。 ・3学年では、生徒一人ひとりの希望に応じた適切な進路指導を実施する。特に、大学進学を柱とした進路指導の充実に努め、国公立と関関同立に関しては前年度と同程度の合格者数をめざす。新テストに対応するため、自らで学びを深める意識を高めさせる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容38【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>昨年に続き、新旧学年情報交換会を開催する。また、校外の説明会などで得られた情報を3年学年団と共有して利用するため情報共有を進めていく。また、新しい入試についての情報共有を積極的に進めていく</p> <p>指標：Google ドライブでの共有ファイルに大学説明会の説明会報告書を作成し、進路指導部クラスルームへの情報提供数を昨年より増やす。</p>	B
<p>取組内容39【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>路指導室の配置・資料掲示・生徒への情報発信の方法など、3年生の進路係の協力も得て検討を行い、生徒が利用しやすい工夫を行う。そして、進路指導部の情報紙である南十字星を昨年からの継続として学期毎に2回以上発行する。進路指導部前の自習スペースについても、生徒や先生が利用しやすい空間になるような工夫をおこなう。</p> <p>指標：進路指導室の使用状況の把握による昨年以上の使用と南十字星の毎学期の2回以上の発行。進路指導部前廊下の利用数の増加。</p>	B
<p>取組内容40【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>新校への移管準備をすすめていく。指定校推薦や高大連携など次年度からの方策を検討する。</p> <p>指標：新校の進路ガイドブックの作成 大学訪問の拡大。</p>	B
<p>取組内容41【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>3年生の就職希望者に対して、応募前職場見学を勧めるとともに、ハローワークのジョブサポーターと連携し、確実な内定につながる指導を行う。進学希望者に対しては、志望理由書の書き方講習と小論文プレ講習を実施し、AO入試や推薦入試に対応する。</p> <p>指標：各種講習会、応募前職場見学を実施する。</p>	B

<p>取組内容 4 2 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 1 学年では、校外学習や芸術鑑賞行事を通じて日本文化への理解を深め、国際社会で通用する教養の土台を涵養する。</p> <p>指標：感想文やレポートなどにおける生徒の自己評価を 7 割以上とする</p>	A
<p>取組内容 4 3 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 2 学年では、高校生活や各自の取り組みを振り返らせ、キャリア教育によって進路意識を高める。</p> <p>指標：事後アンケートによる生徒満足度を 8 割以上とする。</p>	B
<p>取組内容 4 4 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 3 学年では、進路の決定やその準備などに対し生徒自らが積極的に行動していけるよう、進学補習や進路面談を通じて希望する進路の実現につなげる。</p> <p>指標：年間で教科の進学補習を 30 回、進路面談を学期に 1 回行う。</p>	B
<p>取組内容 4 5 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 桜和高校での大阪教育大学との連携に向けて、大阪教育大学学生・院生のインターンシップを充実させる。</p> <p>指標：今年度の取組に対する評価として、南高校の生徒、教員、学生・院生にアンケートを行い、取組内容に対して有益だと評価する割合を 7 割以上とする。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>㊸今年度についても、3 月上旬に新旧 3 年学年団での情報交換会を予定している。情報発信についても、Google クラウドの進路ルームを開設し情報を提供した。</p> <p>㊹進路指導室の使用については、懇談や来客の対応など毎日のように使用していた。ただ、生徒が自主的に使用するという場面が少なかったことが反省点といえる。</p> <p>㊺進路指導室前のスペースについては、ほぼ毎日懇談や補習などで、また、生徒たちの主体的な学びの場として積極的に使用されていた。</p> <p>㊻就職や AO 入試の小論文、面接対策については、個別に対応を行った。今年度は、公募試験において、国際基督教大学など面接を伴う入試においても合格をあげることができた。就職試験も、民間就職は希望職種に就職させることができた。</p> <p>㊼校外学習や歌舞伎の感想では 9 割以上の生徒が高い自己評価をしていた。</p> <p>㊽定期考査 4 回、7 月進研模試、文化祭、体育祭、イングリッシュセミナー、修学旅行と 9 回振り返りをおこなった。</p> <p>㊾進学補習や進路面談を丁寧に行い、指標を達成した。学年アンケートで 82% の生徒が満足度を示している。</p> <p>㊿地歴科に配属された院生の授業を受けている生徒の様子や生徒の振り返りシートによると、生徒の満足度は高いものであった。院生にとって、本校で良い実践研究が行えたことが報告書からうかがえる。</p> <p>㊿今年度は 3 年生国語科で歌舞伎を鑑賞することができた。生徒アンケートでは満足度 95% を越えたことから、達成の指標である 80% 程度を達成したと考えられる。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>㊿11 月に予定している修学旅行をはじめとする行事で日本文化を理解し、国際感覚が身につくよう指導する。また、進路指導部と連携しキャリア教育講座などで進路意識を向上させる。</p> <p>㊿次年度、桜和高校で受け入れる場合は、授業計画や配置について工夫する必要がある。</p>	

大阪府立南高等学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>施策6 (国際社会において生き抜く力の育成) 関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化を理解し尊重するとともに、日本文化への理解や関心を高める。 ・国語科では、鑑賞行事を通して日本文化に関する知識を深めるとともに、授業や行事の中でプレゼンテーション力を向上させる。 ・英語科では、音読活動やリスニング学習による音声言語力の伸長を図るとともに、様々な英語科行事をとおして、思考力・判断力・表現力を育成する。 ・生徒一人ひとりが自主的に国際交流活動に参加できるよう、感染症対策を考慮に入れたうえで、国際交流活動の運営・企画等について工夫する。 ・国際交流活動を体験型学習やアクティブ・ラーニングの観点から捉え直し、一層の充実を図る。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容46【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>伝統芸能などの鑑賞行事における言語を含む幅広い表現や、文学踏査における文学作品の深い読みなど、多様な体験型学習を通して、言語表現力を伸ばすとともに日本文化への興味・関心を高める。</p> <p>指標：事後アンケートにおける生徒の達成度を80%程度とする。</p>	B
<p>取組内容47【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>英語科研修旅行などの国際交流の場面において、自国および他国の文化や言語に関するリサーチを行い、考察した結果をもとにプレゼンテーションする機会を設ける。事前事後指導や班単位のプレゼンテーションの視聴等により、確かな学力の定着を図る。</p> <p>指標：生徒アンケートにおける達成度の自己評価の平均を10点満点中7点以上にする。</p>	B
<p>取組内容48【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>異文化を理解し、現代社会が抱える問題を認識したうえで、リサーチを行い、考察した結果をもとにプレゼンテーションする機会を設ける。それにより国際社会を生き抜くための問題解決能力を育成する。</p> <p>指標：生徒アンケートにおける達成度の自己評価の平均を10点満点中7点以上にする。</p>	B
<p>取組内容49【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>海外との交流の機会を積極的に受け入れ、関係生徒・保護者の理解を得て、深化を図る。</p> <p>指標：交流がより深まるよう、校内関係部署・諸団体との情報共有・連携のもと、計画的に準備を進める。</p>	C

<p>取組内容 5 0 【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 海外研修旅行又は国内修学旅行の実施に向けて、安全面を考慮しつつ、管理職及び担任と共に検討を重ねる。国内修学旅行では、日本文化体験できる旅程を作成し、後日アクティブ・ラーニングの場として有効に活用する。</p> <p>指標：事後アンケートで8割以上の生徒が充実感を得られた、6割以上の生徒が文化体験に成果があったと回答する。</p>	B
<p>取組内容 5 1 【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 おおさかグローバル塾等、外部団体主催による海外派遣・留学等の選考について、丁寧な事前指導を行い合格に導く。また、合格者の経験を他の生徒が共有できるよう、校内で英語による報告会を行う。</p> <p>指標：外部団体主催の国際交流事業を有効に活用して、生徒に国際交流を通して国際理解を深める機会をできるだけ多く与える。</p>	B
<p>取組内容 5 2 【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 修学旅行を通して、自国の文化についての認識をより深め、国語科専門科目の学習に活かす。</p> <p>指標：事後アンケートにおける生徒の達成度を80%程度とする。</p>	B
<p>取組内容 5 3 【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 研修旅行で現地高校生との交流を通して英語力を養うとともに、日本の歴史や文化、伝統を知り豊かな情緒を培う。</p> <p>指標：事後アンケートによる生徒満足度を8割以上とする。</p>	B
<p>取組内容 5 4 【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 姉妹校や海外訪問団との交流において、生徒が積極的に対応できるよう、英語科と協力する。海外諸国に関するリサーチを通して国際的な適応力を養い、姉妹校とのオンライン交流を企画する。</p> <p>指標：地歴・公民科、情報科等にも協力を依頼するとともに、姉妹校や訪問団との交流を促進する場を提供する。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>④7 日本文化の紹介に関するプレゼンテーションを行った。今年度は海外研修旅行が実施できず、姉妹校訪問はできなかったものの、自己評価の平均は10点満点中 点であった。</p> <p>④8 時事英語の授業ではトピックごとにリサーチやプレゼンテーションを行った。異文化理解の授業では国や大陸ごとにバラエティに富んだプレゼンテーションを行った。回を追うごとに内容が良いものになっていった。自己評価の平均は10点満点中 点であった。</p> <p>④9 今年度も昨年度に引き続き、コロナウイルス感染症流行のために、姉妹校との交換留学と訪問団受け入れを中止せざるを得なかった。</p> <p>⑤0 コロナウイルス感染症流行のため、3年国語科は修学旅行を四国方面、3年英語科は三重方面を目的地とし、4月に実施した。また、2年英語探究科修学旅行は11月に和歌山県方面で実施され、歴史的かつ伝統的な日本文化に触れることができた。</p> <p>⑤1 おおさかグローバル塾生選考試験において、1名の合格者を出すことができた。また、Girls Unlimited Program (大阪大学・在日米国大使館共催) 選考に1名合格した。</p> <p>⑤2 修学旅行については、国内への急な変更にもかかわらず、国語科生としての見識を深めると同時にキャリア教育により将来について考える機会にも恵まれた。ほぼ全員が満足したというアンケート結果も出ていることから、達成の指標である80%程度を達成したと考えられる。</p>	

- ⑤③ 国内修学旅行となったため、取り組み内容が合致しなかった。修学旅行の事後アンケートによる満足度は84%だった。国内修学旅行ではあったが満足度は非常に高かった。
- ⑤④ 第1学年とオーストラリア姉妹校の「日本語」選択生徒がオンラインで交流する企画が2学期後半から3学期に実施され、自国文化についてのプレゼンテーションで意見交換を行った。

次年度への改善点

- ④⑧ 探究等、さまざまな授業でプレゼンテーションを行う回数が増えてきている。生徒にとって過度な負担にならないように、科目・教科間でプレゼンテーションを行う時期や回数を調整する必要がある。
- ④⑩ 引き続き姉妹校と緊密に連絡を取り、桜和高校での交流プログラムが実現するよう尽力したい。
- ⑤⑩ 海外への関心が高い英語探究科生徒の要望に応えられるよう、国内での修学旅行の中で国際的な交流を体験できるような企画を担任団と検討する必要がある。
- ⑤⑪ 桜和高校でもおおさかグローバル塾生選考試験に合格者を出せるように、説明会の準備をする。
- ⑤④ 来年度も姉妹校交流の一環として、オンラインでの意見交換を行えるように姉妹校担当者で調整する。

大阪市立南高等学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 施策7 (健康や体力を保持増進する力の育成) 関連 ・生徒の健康観を高め、自主的に健康管理ができる力を養う。また、校内の美化・環境整備についても生徒が自主的に取り組むように指導する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容 5 5 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 健康診断の結果を活用して、自らの健康の保持増進について関心を高めるよう指導し、受診報告書の結果を確認することで学校生活を健康に憂慮することなく送れるようにする。 指標：受診の必要があると指示された生徒の受診報告書の回収率を各科とも3割程度とする。	B
取組内容 5 6 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 生徒の健康観を高めるために、保健委員会が発行する「なんこうけんこう」等を活用して、病気やけがの防止についての啓発活動を行う。 指標：「なんこうけんこう」の内容の充実を図り、定期的に(年に8回)発行する。	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
㊦ 受診報告書の回収率はほぼ例年通りであった。	
㊧ 「なんこうけんこう」の内容の充実を図り、より分かり易い新聞となるよう工夫することで発行が遅れがちになるクラスもあった。	
次年度への改善点	
㊦ 健康診断の受診報告書の回収をすすめる。 ㊧ 引き続き保健委員が分担して月に一度「なんこうけんこう」を発行する。	